

# ～野生鳥獣被害対策 普及の取り組み～

(取組者名) 中森忠義氏

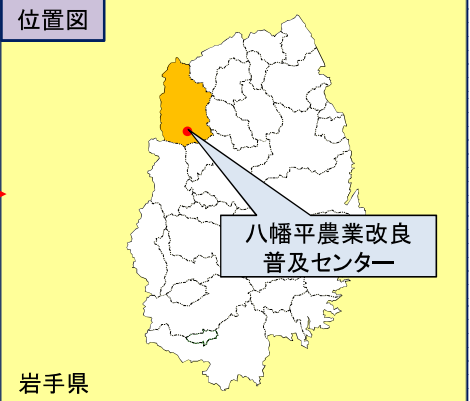
(所在地) 岩手県八幡平市 八幡平農業改良普及センター

## ■ プロフィール

農業改良普及員として八幡平農業改良普及センター（以下「八幡平センター」）が所管する岩手町や八幡平市、隣接する盛岡市や県内各地での野生鳥獣被害対策に取り組んでいる。

なお、平成26年度の県全体のニホンジカによる被害額は2億5千万円、ツキノワグマは5千万円である。

位置図



岩手県

## 1. 取組のきっかけ

- ポリワイヤーを用いた「簡易電気さく」が主流であったが、毎年設置し毎年撤収するといった手間や、積雪期では使用できないこと、更に大型圃場ではポリワイヤーの張力が不足して大区画の設置ができず機械作業に支障が出るといった課題があった。

このため、こうした課題に対応し、効率的にニホンジカやツキノワグマなどによる被害を防ぐための方法を開発・普及するための活動を平成25年から行ってきた。

## 2. 取組の内容と特徴

- 被害防止対策技術の開発と普及  
大規模圃場、防除エリア内での機械作業、冬期積雪、住民不在等の条件に対応できる「恒久電気さく」を用いたニホンジカなどの対策法を確立した。  
また、リーダーとして、当該技術を県下全域への普及拡大を進めている。
- 各種研修会の開催による防止技術の普及  
隣接する市町も巻き込みながら、夏季の現地研修会や冬季の座学研修を体系的に組み合わせて実施している。
- 被害防止活動の担い手の育成活動  
普及センターなど指導機関の支援がなくても、地域内で独自に野生鳥獣対策が取れるよう、担い手の育成を図っている。



電気さく設置講習会の様子

## 3. 取組の成果

- 恒久電気さくを利用する新たな被害防止対策技術の普及状況  
設置した実証圃や各種研修会、対策の効果を実感した農業者らのクチコミ等により、恒久電気さくを設置する農業者らは増加した。
- 地域における被害防止活動の担い手育成状況  
研修会等を通じて育成を図った結果、JA・農機具販売店、大型野菜経営体には知識・技術を有する担当者が配置された。  
また、若手野菜経営者は、自ら知識・技術を習得した。

年次	電気さく新規設置戸数	うち恒久電気さく設置戸数	うち恒久電気さく設置面積	うち冬期の利活用戸数
H25	5戸	5戸	16ha	1戸
H26	12戸	7戸	22ha	2戸
H27	13戸	7戸	65ha	1戸

設置支援した電気さくの戸数・面積

## 4. 課題と今後の展望

- 今後も、電気さくの設置は増加するため、その設置指導・支援は、指導者候補らを中心に育成指導を継続する一方で、技術的には、一層、効果的・省力的な電気さくを目指し、その技術開発と検討を継続する。
- 確立した「恒久電気さく」の利用技術は、当地域だけでなく、シカ被害を受ける県内外の他地域においても、大面積圃場や集落全体を防御する際に活用できることから、普及拡大を図る。